

白神自然観察園で確認されたキノコを紹介しているブックレット



担子菌門 クヌギタケ科

ユキグニヤコウタケ (雪国夜光茸)

Mycena sp.

夏~秋、冷涼な多雪地の沢沿いなど、広葉樹林内の腐朽木・腐枝上に発生する。かさは径1~3cm、円盤形~鐘形、のち凸形~中高扁平。表面は灰褐色~淡褐色で白粉がある。子実体は暗所で緑色に発光する。ひだは白色、やや密。柄は2~6cm、白色~淡色で表面は粉状。不食。
分布：日本(青森県、島根県隠岐の島、鳥取県大山周辺などの多雪地)。
《宮崎ら(2024)による新種》

2025.8.23 (園内)

担子菌門 ヒラタケ科

ヒメムキタケ (姫刺茸)

Hohenbuehelia reniformis

夏~秋、広葉樹の腐朽木上に発生する。かさは径1~5cm(小笠)、腎臓形~扇形で側生し、柄はほとんどないか短脚的。表面は白色~灰褐色~淡黄褐色。肉は上層がゼラチン質、下層が肉質の二期からなり、皮が剥きやすい。ひだは白色~淡灰白色、やや密~中程度で発生。食毒不明。
分布：日本、北アメリカ、ヨーロッパ。

2025.9.13 (園内)

白神のキノコ30種紹介

弘大センター、冊子第13集

弘 前

弘前大学農学生命科学部の白神自然環境研究センターは、同大が管理する西目屋村の白神自然観察園で確認されたキノコを紹介するブックレットシリーズの最新刊「白神自然観察園のきのこ(13)」を出版した。調査で見つけた30種を写真付きで解説しており、これまで同園で確認されたキノコは変種を含め計466種となった。

観察園は西目屋村川原平にあり、面積は約18畝。園内には多様な森林環境が広がり、さまざまなキノコが発生する。農学生命科学部の殿内暁夫教授と市民団体「白神キノコの会」が長年にわたり調査を続け、確認された種類を冊子としてまとめた。今回の第13冊では、園内で見られるユキグニヤコウタケ、ヤマブシタケなど特徴的なキノコを写真とともに紹介し、食用の可否なども記載。北東北のキノコの基礎資料として活用できる内容となっている。



殿内 暁夫教授

18畝という比較的狭い範囲から400種以上のキノコが確認される例は珍しく、殿内教授は「白神山地の豊かな自然を示す貴重なデータ。キノコの多様性や白神山地の自然環境への理解を深めてもらいたい」としている。

(菊谷賢)

この画像は、当該ページに限って”東奥日報社”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。